

令和6年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○ 笑顔があふれる学校…児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○ 元気で活力ある学校…児童が健康・安全・安心にすごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○ 創造力のある学校…児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。
前年度までの本校の現状	成果 本校の教育全般については、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。	課題	朝読書を日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学校図書館の活用に対する数値目標が達成できていないため、図書を使った調べる学習の強化が必要である。また、特別支援教育の充実が課題である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度			「中間」自己（学校）評価(A~D)	「中間」学校関係者評価(A~D)	「年度末」自己（学校）評価(A~D)	「年度末」学校関係者評価(A~D)	次年度に向けた改善案			
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価		コメント		
学力の向上	<学力の向上> ○「江戸川っ子study week!」の実施・改善や、学力定着度調査の実施・分析や、補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の実施…2年～6年生(35回) 各学期に東京ベーシックドリル診断テストや江戸川区学力定着度調査の実施及び結果を受けての指導の工夫の検討・実践 家庭学習期間の実施：年4回 オンラインドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テスト、江戸川区学力定着度調査の平均正答率が一学期より5ポイントアップ 3年生以上到達度70%以上 児童アンケートでICTの活用に対する肯定的な回答9割 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に家庭学習期間を1回実施し、家庭学習カードの提出は9割以上を達成した。 東京ベーシックドリル診断テスト、江戸川区学力定着度調査の平均正答率は、2、3、5、6年生で、2～12ポイントアップしたが、4年生は15ポイントダウンした。今年度の学習内容が定着するよう、毎回5分のおさらいをするなど授業の工夫が必要である。 3年生以上の正答率は65%に留まっている。 児童アンケートでICTの活用に対する肯定的な回答は9割であり、上手に使いこなし、学習意欲が高まっていることが分かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向かって、先生たちに子供の意欲を引き出してもらいたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> オンラインドリル等で既習内容の復習に取組むなどした結果、1学期と比べ2,3,6年生は東京ベーシックドリル診断テストの正答率が7～12ポイントアップした。一方で4年生は江戸川区学力定着度調査の正答率が、-13ポイント、5年生は-6ポイントである。 3・6年生は東京ベーシックドリル診断テストの正答率65%、4・5年生は江戸川区学力定着度調査の正答率61%であり、3年生以上の正答率は目標の70%に満たなかった。しかし、年間を通じてICTの活用に対する肯定的な児童は9割を超え日常的に使いこなしている様子が見られ、授業が分かると思えた児童は9割である。学習が分かって楽しいという意欲は、今後とも継続させたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 改善のための方針が具体的に示されていて良い。 タブレットを活用した学習を中学年を中心に定着させると良い。もう少しゲーム感覚を取り入れ、楽しく学べるとよいのではないかな。 子供たちが楽しく学べていれば良い。学力向上だけが学校教育ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の計算問題の正答率が区の平均よりも下回っている。家庭学習や授業の最初の時間に、ミライシードのドリルパークを活用したり、中学年では100マス計算を行うなどして、個々の苦手を克服できるようにする。 引き続き漢字マスター、九九マスターに全校で取り組み、基礎基本の定着を図る。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業…各学期1回以上(12時間以上) 図書館スーパーバイザー、図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進 図書館を使った調べる学習コンクールの参加 巡回指導員との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 児童アンケートで学校図書館の利用に対する肯定的な回答9割 	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業を1学期に1回以上行い、3年生以上の児童の9割が図書館を使った調べる学習に取り組み、作品としてまとめることができた。コンクールに成果物を提出した児童は8割に達している。 児童アンケートで学校図書館の利用に対する肯定的な回答は8割に留まっている。電算化のために、図書館を使用できない期間があった影響が考えられる。引き続き、図書館の利用を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を活用した学習の充実を感じる。 司書や図書ボランティアなどによるバックアップ体制が整っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで学校図書館の利用に対する肯定的な回答は8割に留まったが、巡回司書と連携し、書架の整理や授業連携ができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの皆様のご助力に感謝申し上げます。 図書館利用の目標が達成できていないのは、タブレットの影響があるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館支援員と連携し、全学年1回以上、学校図書館を活用した授業を行う。 読書科ノートでの思考ツールを活用した探究的学習を系統立てて計画・実施する。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ○体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回のなわ跳び週間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童がなわ跳びに取り組む。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に1回、なわ跳び週間を実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意欲を引き出す指導を感じる。競争意識をうまく引き出し、盛り上がっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回のなわ跳び週間を設定し、8割の児童が縄跳びに取り組むことができた。 体育の研究授業を今年度は3回実施し、教員の研修も継続できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーの招待など子供たちが楽しめる環境を整えてくださった。 寒い中でも子供たちが元気に練習する姿が見られて良い。 現状のまま続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が、校内研究の体育の講師から跳び方のバリエーションを教わり、学期に1回の縄跳びウィークで児童の関心を高める指導を行うことができるようにする。
	○長縄集會…年2回	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで運動に対する肯定的な回答9割 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで運動に対する肯定的な回答は9割を超えている。 なわ跳びパフォーマンス・なわ跳び教室では、運動意欲が高まった児童が9割に達した。2・3学期の長縄大会に意欲をつなげていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を引き出す指導を感じる。 運動会において、児童一人一人が意欲的・主体的に取り組む姿に、日々の教育活動の様子を向うことができた。全学年の児童が意欲的に取り組む姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動に肯定的な児童は年間を通じて9割を超え、長縄大会では、各クラスが自己ベスト更新を目指して練習を重ねる様子が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 高学年が下級生のお手本になり、低学年は高学年を目標にするなど、相互に刺激し合える演出があり良い。 現状のまま続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> OJT研修等の場で教員が縄跳びの跳び方を研究し、全校で長縄に取り組む。 引き続き長縄大会を年3回実施する。 	
実現に向けた共生社会の推進	<特別支援教育の推進> ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員や特別支援教室専門員・SC・心理士・日本語指導員の活用、担任との連携…各学期授業参観・通時 授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別の教育支援計画・個別指導計画の作成と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで学校生活に対する肯定的な回答8割 学級崩壊なし 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、授業や教室環境のルールが全校で統一されている。 通級教室等に通う児童について、連携型個別指導計画を作成・活用することができている。 学級崩壊はなく、児童アンケートで学校生活に対する肯定的な回答は9割であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度、落ち着いた学級があったが、改善できて大変良かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学級崩壊はなく、年間を通じて学校生活に対する肯定的な児童は9割であった。 9割の児童が学校のルールを守っていると回答し、規範意識は高い。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生方のサポート体制が充実しており、負担軽減ができています。 継続的に、学校全体で不登校児童を減らす取組を行っていることが分かる。学校全体で取り組んでいるのが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも児童アンケート（年3回）をとり、巡回教員と担任、管理職などが連携しあって、児童が落ち着いた学校生活を送れるよう、サポートしていく。 校内委員会での情報を次年度に確実に引き継ぐ。
	・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 空き時間の教員をエンカレッジ当番として配置 エンカレッジルームの児童・保護者への理解啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルームを紹介 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 空き時間の教員をエンカレッジ当番として配置したり、特別支援員を毎日配置したりすることで、効果的に活用されている。 保護者会や全校朝会で、エンカレッジルームを紹介し、毎日活用されている。不登校気味の児童が登校できるようになった。 2学期、3年生に理解教育を行う予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校なし、これからもエンカレッジルームの有効活用を期待している。 学校全体で不登校児童を減らす取組が確認できた。 先生方の個々の児童への配慮と理解を感じた。 豊富な人数で充実していると思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの活用方法についてのルールを設定して教員らで共通理解を図り、年間を通じて効果的に運用された。エンカレッジ当番に対する教員の意識も高い。 別室支援員との連携が軌道に乗りつつあり、不登校傾向の児童が学校へ足を運べるようになった。 研究発表会では3年生への理解教育の実践を発表し、違いを認め合い協力する児童の育成について区内外の教員に向け提案することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続した仕組みをお願いしたい。 年々目覚ましい成果が出ていることに驚く。ありがとうございます。 現状の努力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの活用の仕方について次年度も教職員全体で理解を深め、担当教員を中心に、校内の体制を整える。
	<地域を生かした教育の推進> ○地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム…各学年1回 地域を活用した学習…各学年1回 学校応援団の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童は9割に達している。 各学年とも、ふるさと学習プログラムの計画が立ち、3学期までに実施予定である。 地域を活用した学習について、1～4年生は、地域に出て町探検や自然観察を行った。2学期に、5年生は稲作についてを、6年生はSDGsの活動で地域を活用し学習する計画である。 学校応援団グリーンボランティア等の活躍により、学校の敷地内では常に動植物が生き生きと育ち、学習に活用された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 私も応援していきたい。 地域と積極的に関わりをもち、目に見える形で連携しているのがとてもよい。 地域との連携が目に見える形で行われているので、とてもよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 9割を超える教員が地域やPTAの行事に参加し、地域との連携に力を尽くすことができた。 各学年とも、ふるさと学習を1回、地域を活用した学習を年1回以上、実施できた。 児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童が9割を上回った。 学校応援団グリーンボランティア等と教員が連携でき、学校の動植物が生き生きと育ち、学習に活用された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を通じて地域と連携している姿が見られる。 活動に否定的な意見はほとんど見られず鹿本地区の中で最も安定しているといえる。地域連携の手本となる形ができています。 学校全体の取組が良く素晴らしい。現状の努力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラムや、地域資源を活用した学習を来年度の教育課程に位置付け、継続して連携ができるようにする。 年間PTAや地域の行事をまとめ、教職員の参加を呼掛ける。

不登校・いじめ対応の充実	○いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ未然防止授業…各学期1回以上 いじめ防止「東っこ行動宣言」の作成掲示…通年 SOSの出し方指導…5年生年1回 いじめ・体罰防止の校長講話、児童アンケート…年3回 学校いじめ防止基本方針の全体共有…年3回 SCの全員面接…5学年 SSWの活用…全学年 「学級SNSルール」「東小子どもルールブック」「東小家庭学習の手引き」「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用…年4回 情報モラルについての学習…各学年1回以上 挨拶マスター、学年単位のあいさつ運動…年2回 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期解決継続0% 不登校継続数昨年度比減少 児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答が9割 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ未然防止授業…1学期1回以上実施。 いじめ防止「東っこ行動宣言」を6月に作成し、年内まで掲示予定。 SOSの出し方指導…5年生が10月の学校公開で実施。 いじめ・体罰防止の校長講話、児童アンケート1学期実施し、指導した。校長面接は0件。 学校いじめ防止基本方針の全体共有…年3回のうち1学期実施。 SCの全員面接…5学年で実施。 SSWの活用…全学年で必要に応じて活用。 「学級SNSルール」「東小子どもルールブック」「東小家庭学習の手引き」「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用…年4回のうち、1回実施。 挨拶マスター、学年単位のあいさつ運動…年2回実施した。児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答は9割を達成。 いじめの認知件数は4件で、うち1件は3か月の経過観察後、解消済み。3件は、経過観察中。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体での頑張りを感ずる。 初動が大事だと思う。 定義がはっきりしており、取組の成果が出ている。取組を、今後も継続していただきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめについては、年3回のふれあいアンケートなどで早期発見に努め、臨時のいじめ対策委員会を速やかに開くなど、早期解決に努めた。継続観察中の3件のうち、2件は解消した。継続中が1件あるものの、いじめによる長期欠席は未然に防ぐことができた。 あいさつマスターやあいさつ運動を年に2回実施し、児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答は年間を通じて9割を超えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめに対する対応が早く、結果が出ていることが素晴らしい。 学校全体で問題意識をもって取組んでいる様子が分かり、成果も出ている。 児童の言動の暴力が、一部、存在している。PTAやおやじの会などを通じて、何か手伝えることがないかを継続して模索していきたい。 教員に感謝したい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについては、今後も早期発見、早期対応ができるよう、教員と児童の関係を大切に、いつでも、だれにでも相談してよいことを広く知らせる。また、年3回のふれあいアンケートを使って、自分から相談できない児童も見逃さないようにする。 「あいさつマスター」を実施し、代表委員会を中心に全校で取組み、意識を高める。
	○チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童とのSC、SSW連携率100% 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日に実施。 不登校傾向の児童は、SC、SSW、SS、別室支援員等と連携し、登校できる日数を増やしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 取組の成果がはっきり出ている。見える。 教職員に御礼申し上げます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日に実施できた。 不登校傾向の児童は、SC、SSW、SS、別室支援員等と連携し、登校を継続することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校防止の取組は区内No.1だと思ふ。教員人事の影響を受けないよう、仕組化ができるが良い。 取組の成果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の兆候が見られたら生活指導夕会等で情報共有し、SC、SSW、SS、別室支援員等との連携を検討して登校できる日数を増やせるように働きかける。
	○Hypaer-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uの実施・分析、報告会…年2回（1回は学校独自調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校満足度調査（Q-U）による満足群の割合が全国平均を超える学級9割 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uの実施・分析、報告会…1回実施。 学校満足度調査（Q-U）による満足群の割合が全国平均を超える学級は8割に留まった。各クラスの分析と今後の取組状況を12月に確認する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が楽しく学校生活を送っている様子が見られる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月のQ-Uテストの結果、満足群の割合が全国平均を超えるクラスは17クラス中15クラスであり、特に1～3年生で学校生活に満足している児童の増加が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAの活動を通じて、満足度向上を更に実現していきたい。 1年間を通じて楽しく通学している姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も6月にQ-Uテストを実施し、各学級のクラスの様子を共有すると共に、分析結果を学級経営に生かす。
学校（園）の開かれた地域社会の実現	<自校の取組の積極的な発信> ○学校ホームページの充実等・tetoruを使った情報の発信 ○学校公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校日記などの適宜更新。 tetoruによる情報発信 学校公開の年3回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで、学校は保護者に適宜情報を発信していると思うかについて肯定的な回答8割 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校日記などが適宜更新されており、今年度のアクセス数は55,724件である。（9月28日現在） tetoruによる情報発信も、効果的になされている。 学校公開の年3回のうち、1回実施。 「学校は保護者に適宜情報を発信していると思うか」についての保護者アンケートは10月に実施予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> tetoruを利用した学校だよりや、ホームページ等、情報発信をしている。 これからも情報発信をよろしくお願ひします。 ホームページの情報量が多いのは、大変ありがたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校日記のまめな更新により、今年度のアクセス数は82,961件に上った。（2月12日現在） 年3回の学校公開を実施できた。 学校の情報発信については、肯定的な回答をした保護者は9割を超えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを活用した情報発信は、非常にありがたい。 学校だよりで書かれている校長先生の文章やこまめなホームページ更新により、学校の様子が良く分かり、保護者も安心だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、土曜授業を給食有りの5時間授業とし、教育活動のさらなる充実を図る。また、振替休業日を確実に設け、児童と教職員の心と体の健康を守る。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の学校関係者評価の実施 年末年始に次年度での改善事項の選定 年3回の学校評議員会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケートで昨年度の反省が生かされているに肯定的な回答8割 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価は、年2回のうち1回実施。 学校評議員会は、年3回のうち1回実施。 昨年度の学校評価で出た改善事項は、今年度の実施案等に反映されている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会では、出席者がコミュニケーションを取りやすいように配慮されている。説明も分かりやすい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会を年3回、学校関係者評価を年2回実施できた。 教員アンケートで昨年度の反省が生かされていると、肯定的な回答は8割を達成し、改善がなされている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も各町会の皆様と連携ができた。この形を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員や学校評議員、保護者や地域から出た反省を次年度に引き継ぎ、改善する。
教育の展開 特色ある	<小中連携教育の推進> ○「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> 連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議…年3回 うち6年生の体験授業・部活体験の実施連携…年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童（6年）9割 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議…年3回のうち2回実施。 うち6年生の体験授業・部活体験の実施連携…1回実施。 児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童（6年）は6割に留まっている。学習面の不安をなくし、中学校生活の楽しさを紹介するなどの手立てが必要かと思われる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学校との連携を増やせるとよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小中学校と連携し、年に3回の小中連携会を開催することができた。 SDGsの活動を始め校内外の様々な行事を経験して自信が付いたことにより、児童アンケートで中学生になることに希望をもつ6年生は6割から9割に増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAイベントなどを通じて小中連携を更に高められないかを考えていきたい。 子供たちの自発的な行動につながってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も小中連携会を年3回設け、中学生になることに対し、不安なく、希望がもてるよう連携する。内容のさらなる充実を図る。
	<SDGs教育の充実> ○持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> もったいない運動の取組実施全学年 環境を考える学習：各学年1回以上 6年生のSDGs実践及び発表…年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> もったいない運動（ベロリ賞）に、全学年で取り組んだ。2学期は、ごみの分別やリサイクルに取り組む。 環境を考える学習：各学年1回以上実施。 6年生のSDGs実践及び発表は学習発表会に向けて進行中。 児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割を達成。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会で6年生がSDGsの活動を発表をしたり、副校長が学校の取組を説明をしたりして、取組が分かりやすい。 児童がSDGsについて、理解を深めているように思える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> もったいない運動（ベロリ賞）やごみの分別、リサイクルに全校で取り組むことができた。 6年生はSDGs実践を保護者や区内外の小中学校に向けて発信し、その実践を研究発表で区内外の教員に紹介することができた。 児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答は9割を達成した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も6年生の自発的な活動が見られ、頼もしかった。 SDGsについて年間を通じて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も環境教育やSDGsの活動を教育課程に位置付け、持続可能な社会を創造しようとする児童の育成を目指す。